



Veritas In Silico

Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

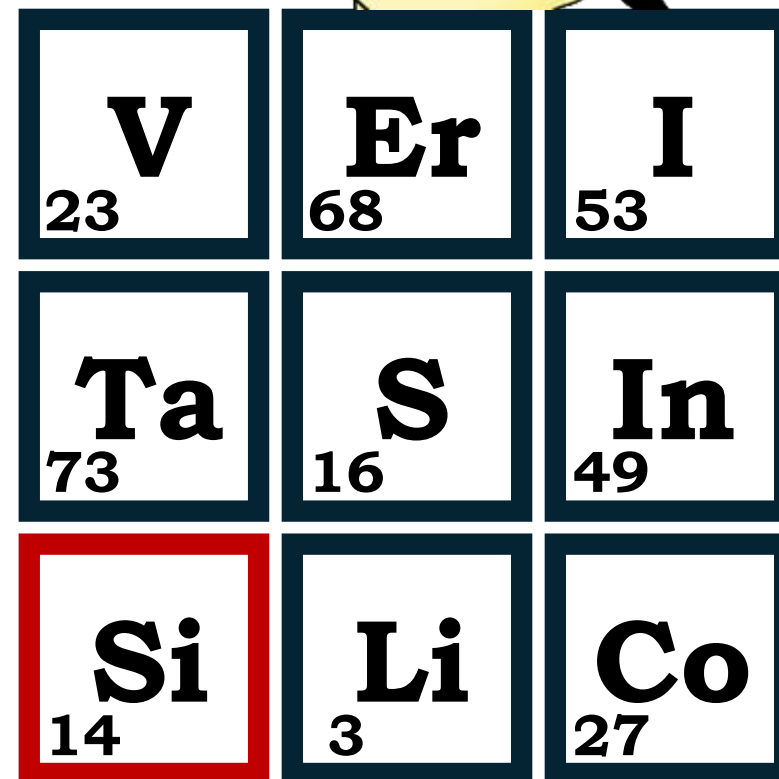


2026年12月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社 Veritas In Silico

証券コード: 130A

2026年5月11日



プラットフォーム事業:新たな展開

- 各社との共同創薬研究が順調に推移
- スイス SpiroChemと覚書を締結。現在、mRNA標的化合物の共同探索研究の契約締結に向けた実務協議中
- 新規契約獲得に向け、CDA締結済みの国内外8社との契約交渉を継続し、事業開発を推進

パイプライン事業:順調に進捗

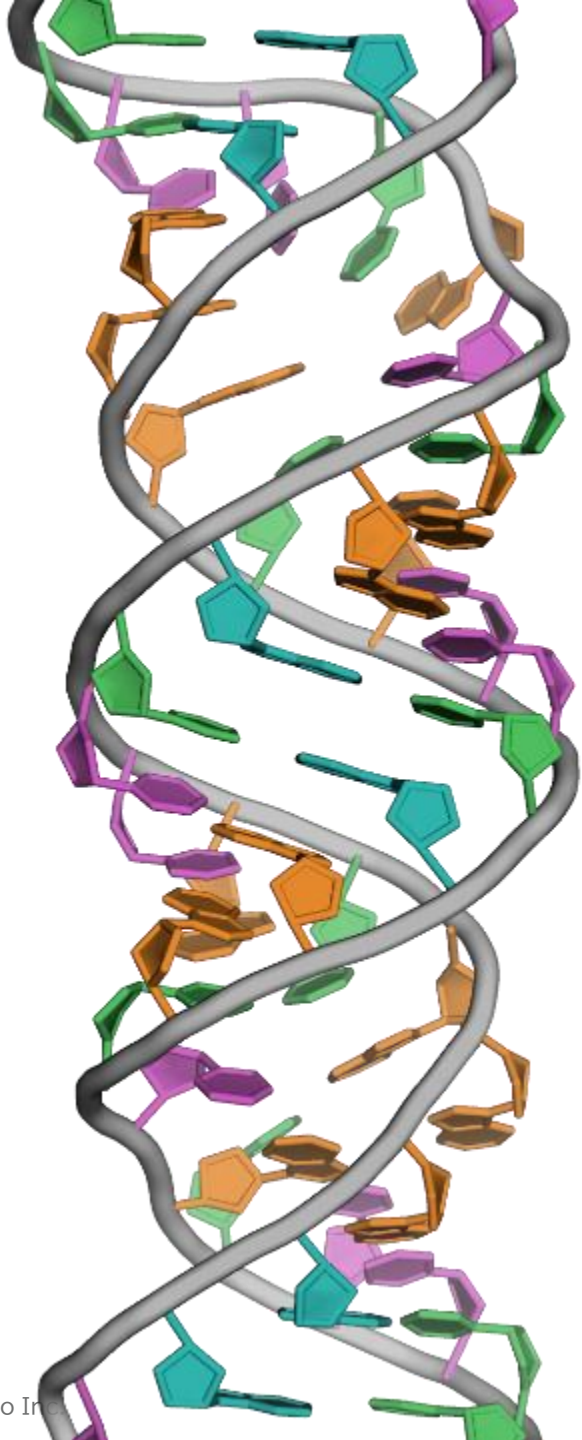
- 自社パイプライン1については、非臨床試験に向けた動物実験の準備を開始
- 自社パイプライン2においては、2026年内の医薬品候補物質に関する特許出願を目指し、現在複数の有望候補を創出
- ALS治療を対象とする新規核酸医薬品の物質特許が公開日を迎え、東京慈恵会医科大学と共同記者会見を実施

Perfusio事業化計画が具体化

- 2027年の販売開始を目標とし、PMDAとの相談・パートナー企業の選定を開始

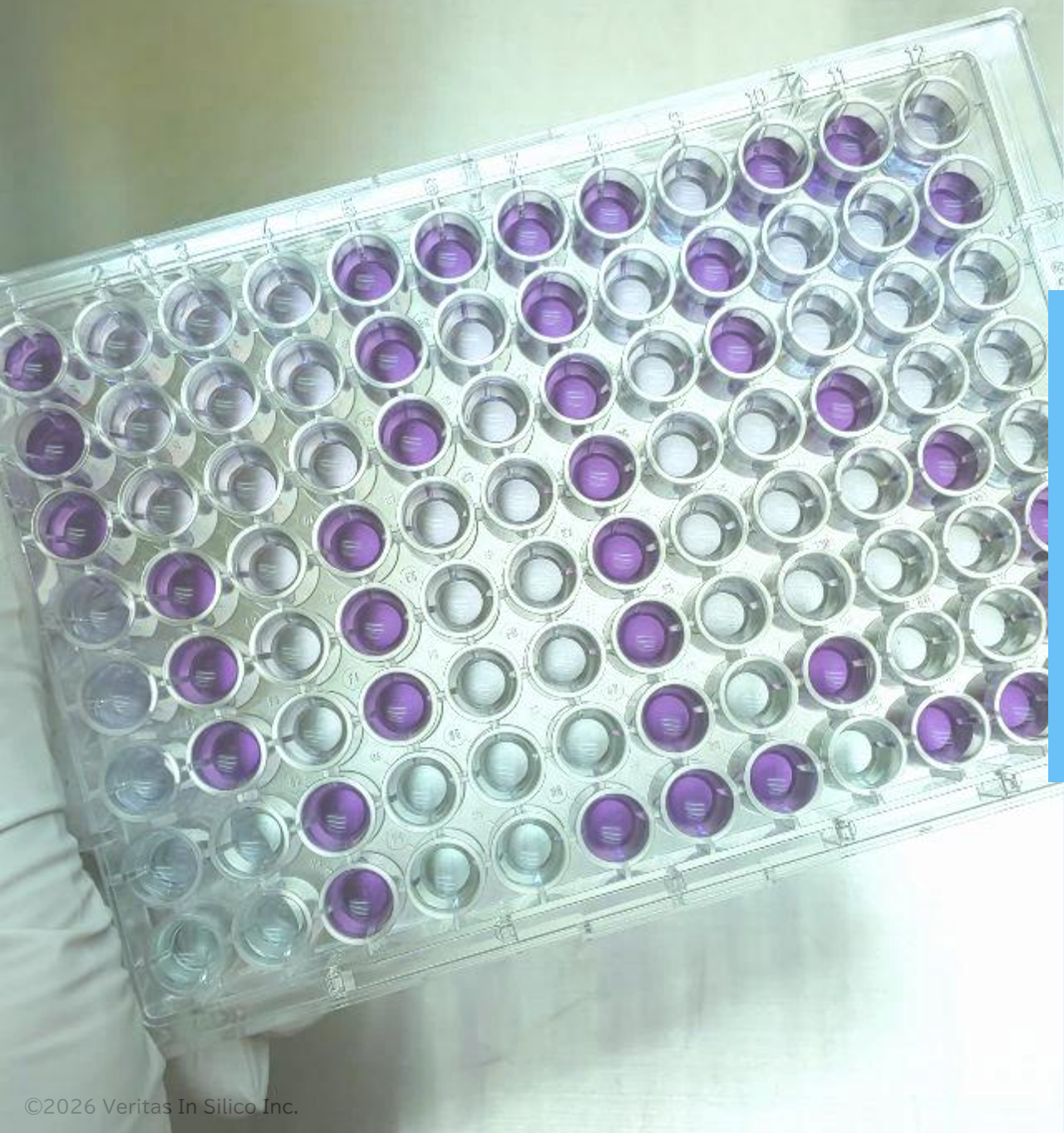
2026年12月期 第1四半期決算の要約

- 事業収益は17百万円、事業費用は139百万円、当期純利益は△256百万円
- 特別損失にて減損損失135百万円を認識するも、年度業績予想は据え置き



Contents

- 1 事業ハイライト
- 2 財務ハイライト
- 3 Appendix



1 事業ハイライト

2 財務ハイライト

3 Appendix

2026年1月19日、ALS治療に向けた新たな核酸医薬品の物質特許の公開日を迎えて、東京慈恵会医科大学との共同記者会見を実施

プレスリリース:[2026.1.19 東京慈恵会医科大学とVeritas In Silico、筋萎縮性側索硬化症\(ALS\)の治療に向けた新たな核酸医薬品に関する特許公開のお知らせ](#)

01 特許概要

PATENT DETAILS

核酸医薬の物質特許

特願 2025-575964 / PCT/JP2025/025230

対象: ALS(筋萎縮性側索硬化症)
世界約30万人、国内約1万人の難病*

*2016年時点

- ✓ 新規の標的に対する核酸医薬品
- ✓ ibVIS®(現 aibVIS)プラットフォームを活用したAI創薬
- ✓ 病態研究に強いアカデミアと、医薬品の最適化を担う産業界の早期連携でアンメット・メディカル・ニーズへ迅速対応

2026年1月19日

東京慈恵会医科大学との
共同記者会見の様子



02 事業上の特徴

- **技術応用性を活かした創薬戦略**
当社技術の特長である、低分子創薬および核酸医薬創薬の双方への応用可能性を活かして多様な創薬研究を推進
- **早期連携で「第三のアプローチ」**
アカデミアの初期研究段階から伴走し、双方の強みを活かしてより早期の実用化を期待できる研究体制

*現時点で2026年12月期業績予想に大きな影響はなし

SpiroChemとの共同探索研究の契約締結に向けて進行中

スイス SpiroChemとmRNA標的化合物の共同探索研究に関し、契約締結に向けて研究計画の具体化と実務手続きを並行して進行中。両社の強みを活かして将来の創薬に役立つ設計基準の確立を目指す

プレスリリース:[2026.1.26 SpiroChem と Veritas In Silico、mRNA標的化合物の共同探索研究に関する覚書締結完了のお知らせ](#)



それぞれの役割



SpiroChem



世界的水準のマクロサイクル、ペプチド、ペプチドなどの化合物に対する深い知見を提供



高品質な化合物ライブラリの提供と探索支援

Veritas In Silico



AI創薬プラットフォーム「aibVIS」によるターゲット探索とスクリーニング技術の提供



独自の細胞実験技術を活用した化合物の最適化と検証

将来展望

共同開発・ライセンスアウト:

創出された研究成果は共同で保有し、将来的に第三者(製薬企業等)へライセンスアウトを目指す

自社パイプラインの拡充:

本研究を通じて生み出される低分子医薬品は、VISの「自社パイプライン創出」に相当するものとなる見込み

当社が取り組む研究は年々高度化しており、将来を見据えた研究体制の増強に取り組む



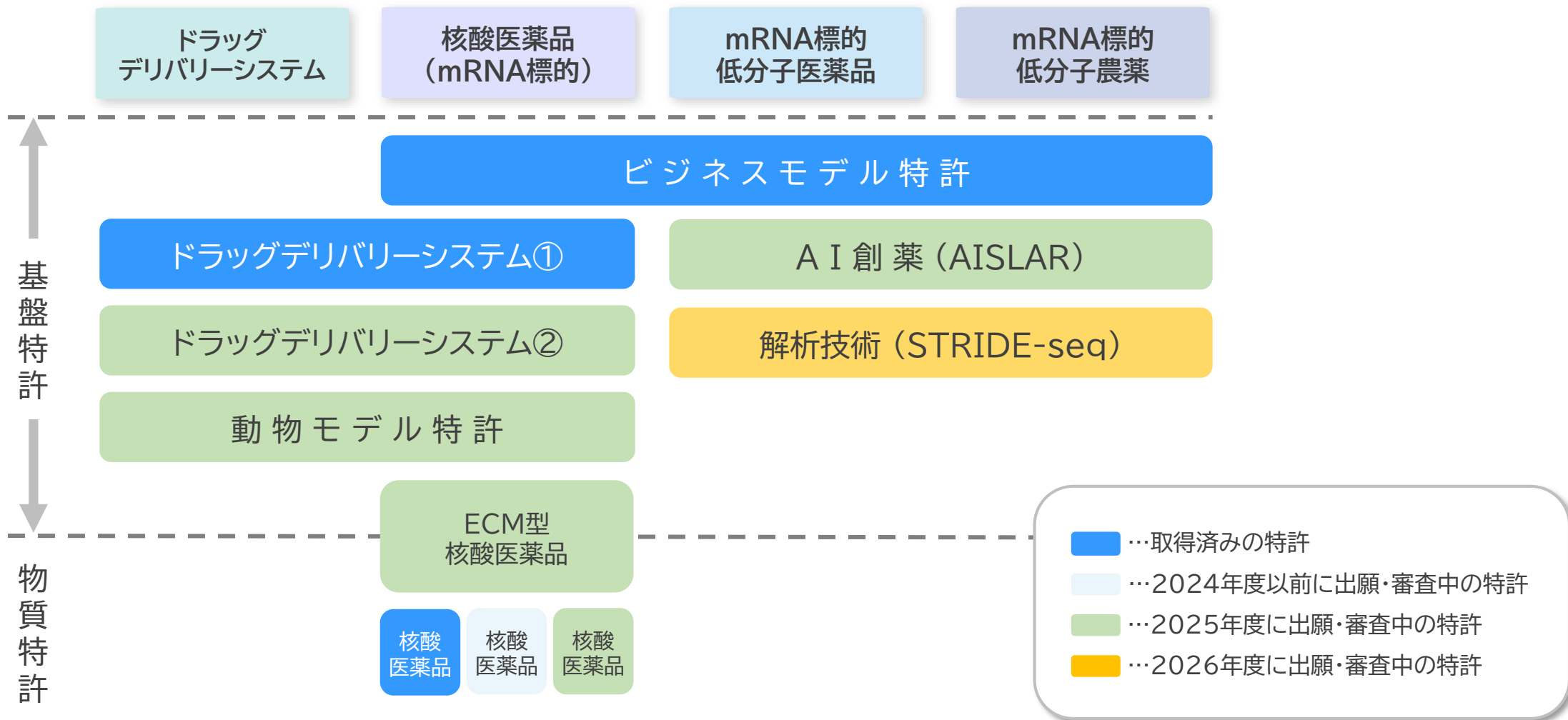
川崎研究所内
本格稼働に向けて準備中

- RNA研究に最適化した設計(清浄性・動線・機器配置)により、難易度の高いRNAを安定的に扱う研究環境を構築
- 特化型AIやDXを活用し、効率化を高めつつ共同研究の質を高め、戦略的な研究に取り組む



特許申請・取得の状況：継続的な知財拡充で持続的な競争優位性を強化

当社の多様な事業ポートフォリオ全体をカバーする特許を継続して取得

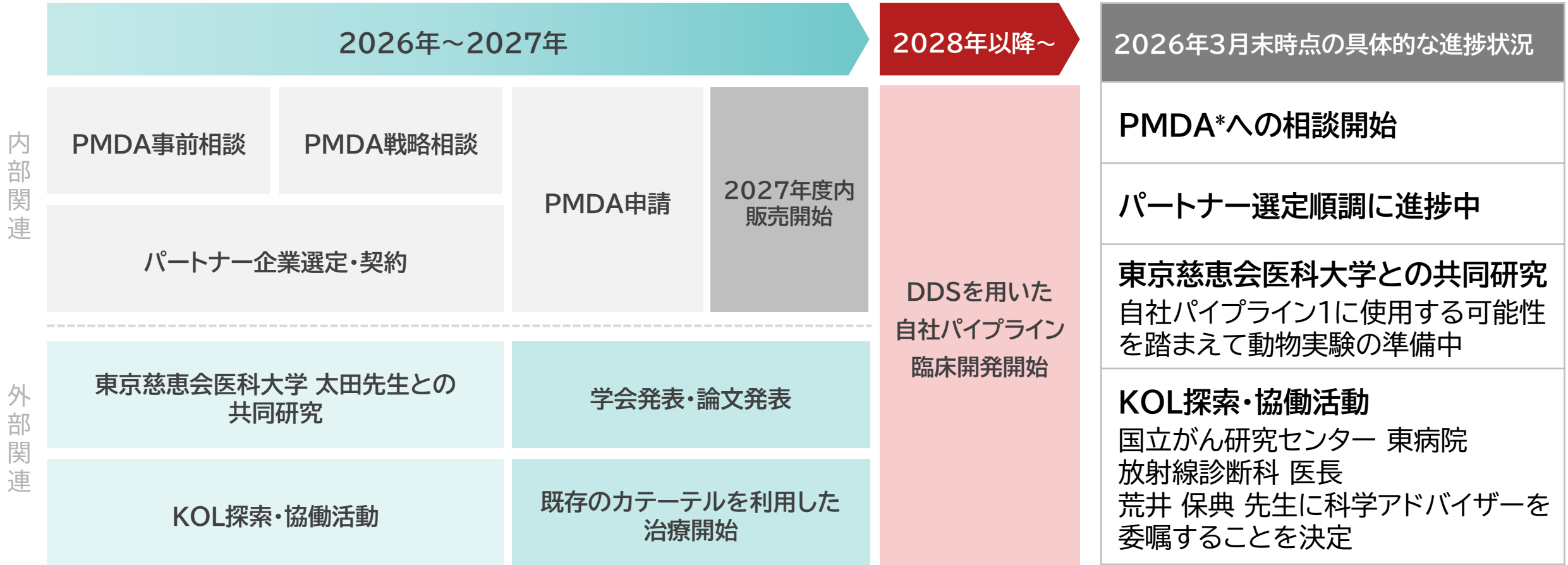


Perfusio 事業化に向けた計画が具体化



当社独自のDDS(ドラッグデリバリーシステム)「Perfusio」は、2025年12月に特許査定及び権利化手続を完了し、実用化に向けて着実に前進。臨床試験期間とコストを約5分の1に圧縮する可能性のある革新的な本システムの実用化に向け、新規事業開発室を中心に事業化を開始

← 現状のフェイズ →



*PMDA(医薬品医療機器総合機構): 医薬品や医療機器の有効性、安全性、品質を確保するための独立行政法人

DDSについての詳細は2026年2月12日に開示した事業計画及び成長可能性に関する説明資料P28,40-43に記載しております 9

新規契約の獲得を通じた収益基盤の強化と、自社パイプライン創出による将来価値の創出を推進。外部環境の変化にも対応しながら、事業領域の拡張と収益機会の最大化をしていく

Measure 1
新規契約
2件締結

新規契約2件締結をKPIとする
外部環境の変化に対応しながら、CDA締結済みの国内外8社との契約交渉を推進

Measure 4
DDS(ドラッグデリバリーシステム)の事業化開始

「Perfusio」の事業化準備を進める
2027年の販売開始を目標とし、PMDAとの相談・パートナー企業の選定を開始

Measure 2
パイプライン
2本目創出

自社パイプライン2の創出に向けた研究を進める
2026年内の医薬品候補物質の特許出願を目指し、現在複数の有望候補を創出

Measure 5
新川崎研究所
移転完了

新川崎研究所を移転させる
計画通り2026年3月に移転完了し、本格的な稼働に向けて準備中

Measure 3
パイプライン1
非臨床試験の
開始

自社パイプライン1の非臨床試験(動物実験)を進める
Perfusioを活用した動物実験の開始に向けて準備中



1 事業ハイライト

2 財務ハイライト

3 Appendix

2026年12月期 第1四半期 業績概要



事業収益は研究支援金等17百万円を計上、事業費用は研究開発費67百万円を含む139百万円が発生。特別損失にて有形固定資産の減損処理に伴う減損損失135百万円を認識。四半期純利益は△256百万円にて着地

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

	2025/12期 第1四半期実績	2026/12期 第1四半期実績	増減額	増減率	
事業収益	24	17	△6	△26%	2026年度 第1四半期 主な内訳 (単位:百万円)
事業費用	105	139	34	33%	
営業利益	△81	△122	△41	—	事業費用のうち 研究開発費 67 販売費及び一般管理費 72
営業外損益	1	2	0	—	
経常利益	△79	△120	△40	—	
当期純利益	△79	△256	△176	—	特別損失 減損損失 135

2026年度 第1四半期
主な内訳 (単位:百万円)

事業収益のうち
研究支援金等 17

事業費用のうち
研究開発費 67
販売費及び一般管理費 72

特別損失
減損損失 135

四半期業績の推移(FY2023Q3~FY2026Q1)

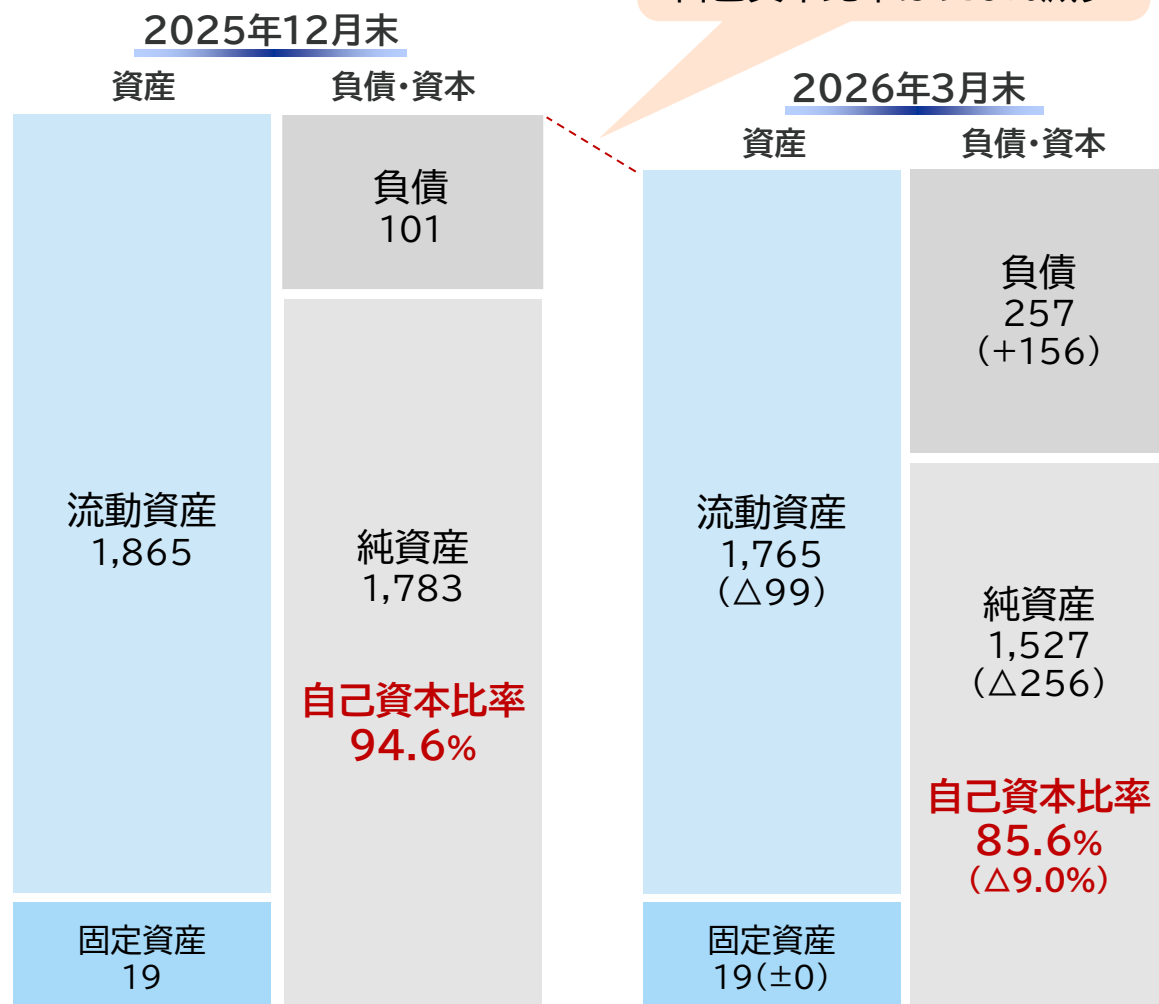
(要約)四半期会計期間損益計算書 (単位:百万円)

QoQ	FY2023 Q3	FY2023 Q4	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 Q4	FY2025 Q1	FY2025 Q2	FY2025 Q3	FY2025 Q4	FY2026 Q1
事業収益	29	81	32	83	49	29	24	19	22	25	17
事業費用	80	83	97	85	104	120	105	124	124	134	139
営業利益	△51	△2	△65	△1	△54	△91	△81	△105	△101	△108	△122
営業外損益	△1	0	△22	0	0	1	1	1	1	1	2
経常利益	△53	△1	△87	△1	△54	△90	△79	△103	△100	△107	△120
当期純利益	△53	△2	△87	△2	△55	△90	△79	△104	△101	△140	△256

貸借対照表の推移 (単位:百万円)

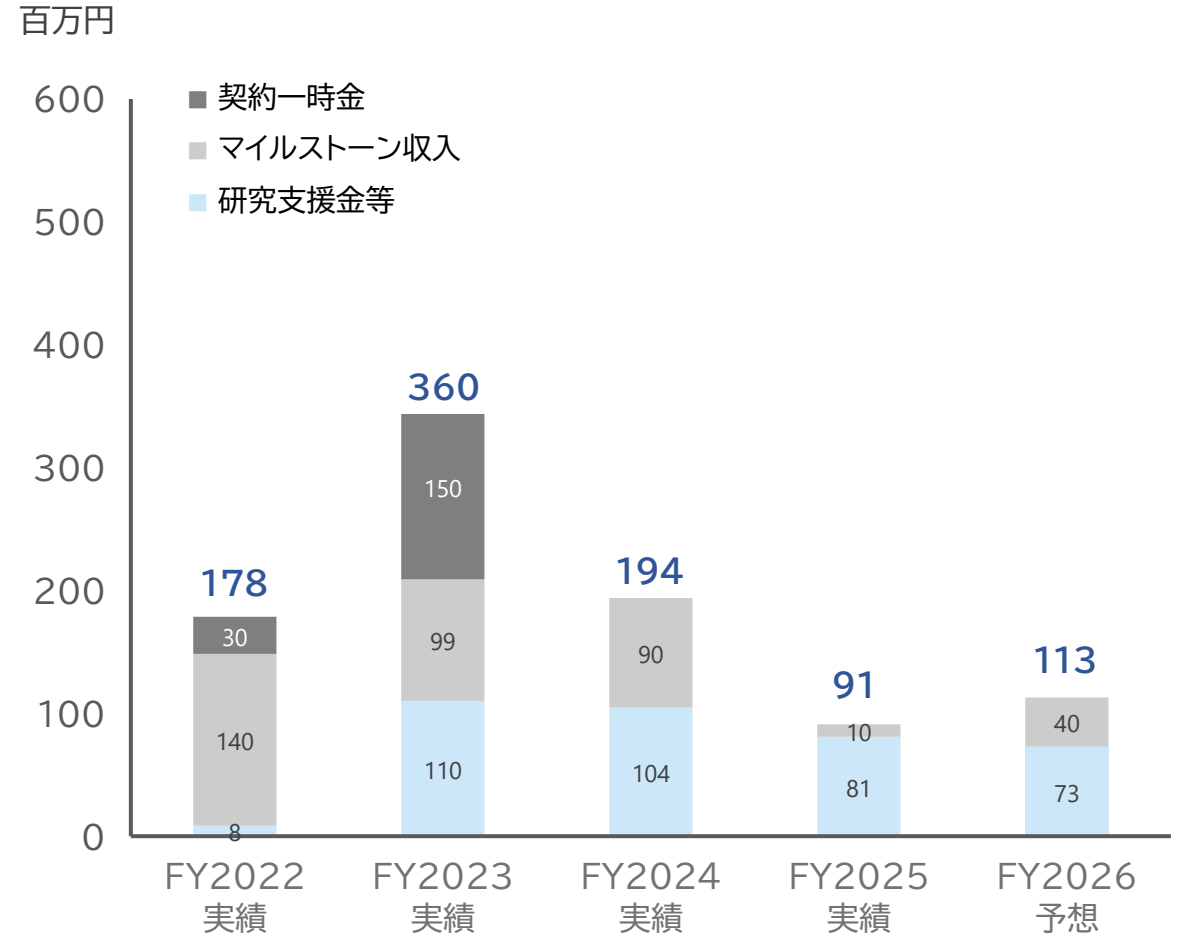
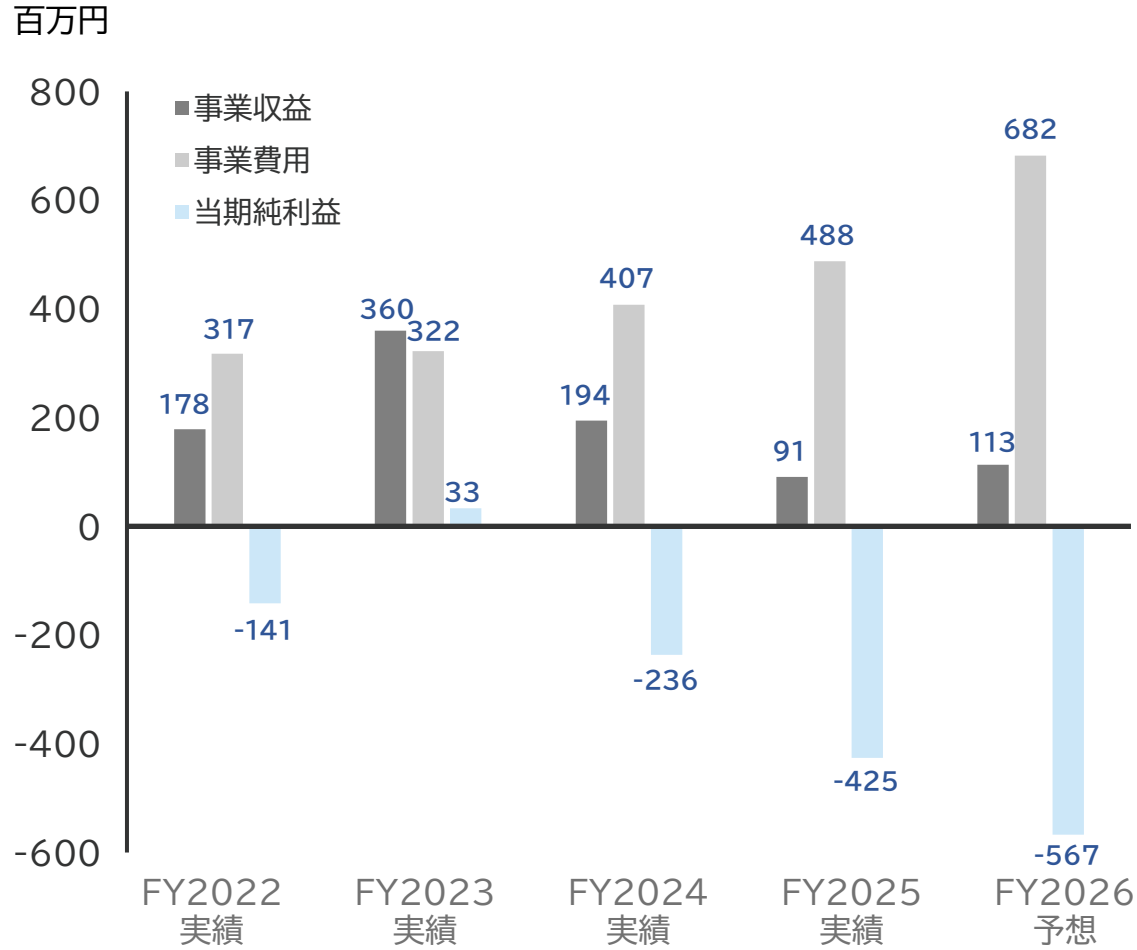
	2025年度 期末	2026年度 第1四半期末
現金及び預金	1,825	1,715
流動資産合計	1,865	1,765
有形固定資産	0	0
固定資産合計	19	19
資産合計	1,884	1,785
負債合計	101	257
資本金	10	10
純資産合計	1,783	1,527
負債・純資産合計	1,884	1,785

バランスシート推移 (単位:百万円)



※本図のバランスシート項目の割合は概念的なイメージであり、正確な数値を反映したものではない。

各年度 事業収益と収支の実績および業績予想





STAGE

2 SCORE

4985

Junction

HIT

157 IR:4

Appendix



Webサイト: [株式会社 Veritas In Silico](#)



Note: [中村 慎吾 | Veritas In Silico | note](#)



X(Twitter): [株式会社Veritas In Silico【公式】\(@VeritasInSilico\) / X](#)



LinkedIn: [Veritas In Silico Inc. | LinkedIn](#)



アナリストレポート: [Fisco 企業調査レポート 2026年5月8日](#)

Webサイト



Note



X



LinkedIn



本資料は、株式会社Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。

そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

なお本資料は原則として、期末決算発表の時期を目途に毎年更新し、開示する予定です。

お問合せ先：
株式会社 Veritas In Silico
経営企画部 広報IR担当
ir@veritasinsilico.com



Veritas In Silico